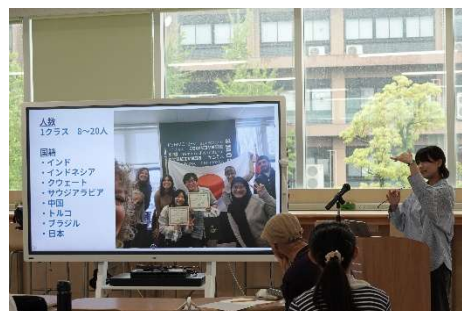


グローバル・カフェ 留学報告イベント(アメリカ)を開催しました

2026年6月24日(水)、留学報告イベントを実施しました。報告者は春休みにアメリカ・コロラド州立大学での6週間の研修を終えた教育学部3年の三好ひよりさんで、学生16名、教職員4名の計20名が参加しました。

三好さんがこの時期を選んで留学を決意したのは、教育学部は3、4年の夏休みに実習があるため、2年の春または3年の春がいいと思ったからだそうです。留学前にはいくつか目標を立てました。特に、将来英語教員として活躍するために英語力向上を目指し、友達をたくさん作って積極的に会話や活動に参加すること、教員になった時に経験として生徒にシェアできる引き出しを増やすために日本の文化との違いを意識的に見ることができるようになることを目標に決めました。



コロラド州立大学は、コロラド州 フォートコリンズにあり、ビジネス、農学、獣医学、工学など8つの学部と55個の学科があります。学生数:約3万人で留学生数:1,000~2,000人おり、大学の敷地がとても広いため最初の頃はよく迷子になったそうです。自然が豊かで、キャンパスの中をリスやウサギが走り回っていたそうです。

留学中は寮生活でしたが、寮の建物内は食堂や共同キッチンなどの施設が充実しており、大学の学生センターにも日常生活に必要な店や銀行などが入っていたので便利でした。授業は1クラス8~20人の多国籍の学生から成るクラスで、英語のほかにも「サステナブルとは」「多様な文化を持つ人との協働について」などの授業がありました。また、小学校や大学の日本語の授業にも参加しました。朝6:30起床、22:30就寝と、規則正しい生活を心がけ、健康に注意して過ごしたそうです。授業以外にも、地元の企業や工場などを訪れたり、週末にロッキーマウンテン国立公園へのハイキングや友達と映画を見に行くなど、充実した日々を過ごしました。



留学前に立てた目標は80%~100%と、ほぼ達成できたそうです。英語に自信が付き、発音も大事だが、伝えたい気持ちと伝え方、内容の方が大切だと気付きました。人とのかかわり方については、たとえ国が違っても相手を理解しようとする気持ちが大切だと学びました。また、新しいコミュニティーに入る勇気や環境の変化を楽しむ力も身に付けました。困難やストレスもたくさん経験しましたが、それを乗り越えて成長できたことを皆さんにも伝え、ぜひ留学にチャレンジしてみてほしいと語ってくれました。